

かいほつ 第3号



ライオンズクラブ招待 社会見学

岡崎市特殊教育推進協議会・昭和55年12月1日発行



特殊教育部長

稲垣 茂

心を開く

いまだ心に残る岡崎障害児担任教師たちの実践報告の中から本を片っぱしからビリビリ破る子には、何冊も何冊も古い本を与えその行為を続けさせました。分厚い電話帳を四冊も破りました。その中から録の使い方に導いてきました。

何の意味もないクシャクシャの曲線しか書けない子には、それを一ぱい一ぱい書かせています。この子にやがてひらがなが書けるようにする日を夢みながら。

ミルクの飲めない子には、遠足に行くのに水筒のかわりにミルクを持たせ、口が濁いたとき飲ませて成功しました。

いつまでも登下校の送り迎えをして下さる父兄に、心配でしたが思い切ってやめてもらいました。それから自主性が育ってきたように思います。

現実目の前の子ども達を「何とかしてやらなければ」「どうすれば幸せにしてやるか」と英知を傾むけひたすらに努力を続けられるこれら教師に心からの敬意と感謝を表わさずにはいられません。

来年は、国際障害者年ということですが、いたずらにお祭り騒ぎに終ることのないようにしたいものです。こうした障害児担当教師たちの地道な努力と実践の結果が集大成されることこそ意義深いと思われまふ。

この研究集会で、ある女教師は「子ども達が喜んで教師のそばに寄ってくるようにしなければ、障害児の教育は始まらない。」と……、その報告の最後に結んだ言葉が深く心に残っています。

子どもの作品

かけっこ

竜美丘小 一年

にゆうじょうもんからはいるとき、七人で手をつないではした。七くみのきょうしつのためとま。わたしは、すわって、だまってまっていた。おあさんはどこにいるかな、とおもってさがした。おあさんがいた。すぐちかくで、みてくれた。うれしかった。

わたしのはしるばんになった。しろいせんのところになった。

コスモスの花

南中 二年

ないとうせんせい、あかいはたをあげて、よいどんといつた。やよいちゃんひさこちゃんわがたしのまえをはしっていた。ぬかしたいとおもったけど、ぬかせなかった。はしりおわつてから、おねえさんが、三とうだったよ、とおしえてくれた。わたしは、三とうのはたのところにすわった。かけっこがいちばんおもしろかった。

コンクリート コンクリート！
コスモスが咲いている
とてもさびしそうだ
まわりは固いコンクリートと冷たい風
友達はどこへ行ったのか
コスモスの花はひとりぼっち
小さなすきまに根をはって
一生懸命咲いている
力いっぱい咲いている

根石小 五年



評

強い線で友だちがかけました。テーパーのごちそうと体の動きがかけるとよかったです。と思います。

甲山中 二年



評

はちきれらうな表情からいかに健康という感じですか。力強い堂々とした作品です。

小児科医の立場から、障害児の問題を考えると、大きく二つに分けて考えることができます。

第一は、現在心身に障害のある児を、医学的、教育的立場から、いかに療育したらよいかという問題であります。一口に障害児といっても、その程度にはいろいろあります。全く床に臥しただけで、自分の身の回りのこともできず、自分の意志の伝達もまゝならない、いわゆる重度障害児と、ある程度は自分の意志を表現することが可能で、日常の生活に大きな支障もなく、健康児とあまり変らない軽症の

障害児と千差万別であります。このように程度の異なる障害児を同じように療育することは、決して良い結果を期待できません。こゝに、障害児の療育の難しい

学的、教育的見地から、この隠された能力を、可能な限り引き出し、それを伸してあげるよう、両親、教師、医師はもとより、療育に直接、間接に携わる人々

隠された能力を引き出そう

国際障害者年を迎え

小児科医 杉 浦 寿 康

点があります。しかし、重度障害児といえども、その個体の中には、人間としての生命が脈打ち、意志も存在するはずで、健康な人には推り知れない能力が隠されていると思えます。医

は努力しなければなりません。第二は、障害児を今後一人でも少くする努力をすることです。それには、障害の起る原因の探究と、その予防方法の研究が必

要であります。この原因の探求、予防方法の研究は、専門家の、たゆまぬ努力によってなされるものではあります。研究を専門家にのみ、まかしているのではなく、多くの人々がこれに協力を惜んではなりません。障害児を社会が特別な目で見ることなく、一人の同胞として迎え入れ、一人の社会人として障害児が生きていることができる時初めて、真の福祉が存在するのではないのでしょうか。国際障害者年を迎え、みんなで考えましょう。

(岡崎市就学指導委員)

明るい顔で「きこえるよ」
竜美丘小難聴学級
「きこえる？」これが、本学級の合言葉。子供の個人補聴器と、教室の補聴機器と、ついでに三人の健康チェックをかねている。声を聞きつけて明るい顔で「きこえるよ」と答えてくれると、本日の学習開始。校内通級の形で、国語、算数養訓の時間に七組で学習する。普通学級へ行っても、元氣よく友だちや先生と話し、学習に参加できるということを目撃してがんばっている。



難聴学級の学習風景

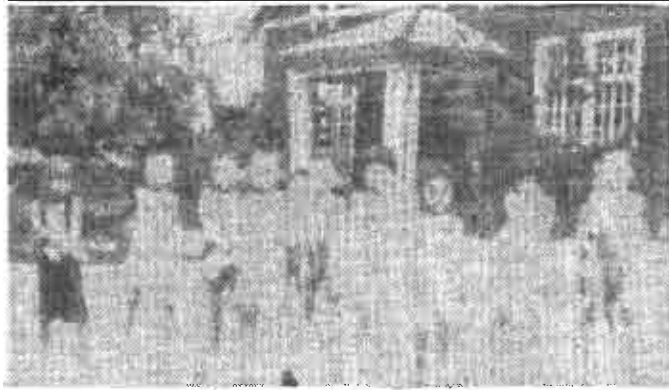
岡崎特殊教育の歩み(一)

全国最初の青空学級

私が担任であった頃

深津 時二郎

昭和一八年、連尺国民学校に養護学級が特設された。戦時中のこととて、健康教育が重視されたためである。今から三十七年も昔のことである。ここに記憶をとめてみると。



風景まつ布乾

戦中の部

学級編成について

入学前にツベリクリン反応の検査をし陽転児をもって編成することにしたが、虚弱児の入級希望もあったので、三九名で編成した。当時の普通学級の1/2の人員であった。

日課について

第一時は、体温測定、朝の観察、乾布摩擦、休けい、学習、第二時学習、第三時、自由遊び、体力測定、第四時学習、給食の手洗い。給食は、養護婦の特別献立、調理は、母親二人出校して行い、食事は子どもと共にする。食後のうがい、歯みがき訓練、休養、その間に母親と懇談し指導する。昼休みは自由な遊びと、日光、空気浴を十分する。第五時は、室外学習、藤棚の下、校外に出での学習、「青空学級」と称していたゆえんである。

戦時下の給食に苦労

カリキュラムは自主編成、日本では初めての試みであるから例がない。学習と運動の balan

ス、健康増進のための指導が多いので、学力をつけるのに、子どもと接する時間を多くして、効果的な指導をするのに苦心した。私には、休けい時間はなかった。また、戦時下なので、栄養のある給食をするのに苦労したが、幸いに、父兄が魚や肉を差し入れてくれたので、助かった。

帰りの会は、運動場である。一日の反省と健康観察、特に疲労の度合などに注意した。健康管理について—毎月一回校医の前川斎先生の診察と、一年一回のレントゲンの大規模撮影をした。一人の肺に異常のある者を発見したが、早期だったので、欠席することもなく全快した。

文部省が研究を指定

かくて、養護学級の指導経営は、県衛生課の八田宏課長に認められ、指導もして下さった。めずらしい研究だったので、全国で二校文部省が指定し、大いに奨励してくれた。

だが戦時下、生活はますますきびしくなり、学級運営は意のままにならなくなった。ついに空襲、学校焼失、二部授業、復興、学制改革と、苦難と混乱の道が続いた。(以下次号へ)

道が続いた。(以下次号へ)
—元連尺小学校長



訓練水川作矢

就学のための教育相談

就学指導委員会開かる

新入学児童の適切な就学をはかるため、毎年十一月になると就学指導委員会が開催されます。本年度は十一月十五日と十二月六日に開催されました。「就学のための教育相談」は十月十八日より三回にわたって行われました。

就学指導委員会の先生方は

愛知教育大学教授 池田勝昭氏

岡田病院院長 井上恭夫氏

杉浦小児科医院長 杉浦寿康氏

岡崎養護学校校長 鈴木拓郎氏

安城養護学校校長 佐藤典郎氏

岡崎児童相談所長 沢田忠治氏

福祉の村希望の家 友愛の家館長 阿部輔良氏

六ツ美中学校校長 太田昇氏

六名小学校校長 稲垣茂氏

教育委員会 藤井清氏

以上十名の先生方によって、相談、助言が行われます。毎年五十人位の方が相談にみえます。

◆あとかぎ◆

◆会報「かいはつ」第三号をお届けします。発行が遅れましたことをお詫びいたします。

◆お忙しいなか、杉浦寿康先生 深津時二郎先生から、国際障害者年を迎えるにふさわしいご提言とご報告を戴き、心からお礼を申し上げます。

◆特集「岡崎の特殊教育の歩み」を四回にわたって連載いたします。写真・資料が満載です。さらさらまでお送り下さい。

連絡先

六ツ美中学校 加藤

TEL四三二〇七一